

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた
「藤沢市大会関連ボランティア等実施計画」

Ver. 1.0

2018 年（平成 30 年）3 月

藤沢市

未来につなぐ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市支援委員会

< 目次 >

1 .	計画策定にあたって	1
(1)	藤沢市と藤沢市支援委員会の基本方針	1
(2)	東京 2020 大会におけるボランティア戦略等	2
(3)	取組の体系と(仮称)市民応援団	5
(4)	計画の枠組み	7
(5)	計画の策定方針	8
2 .	都市ボランティア活動計画	10
(1)	活動内容及び配置等の考え方	10
(2)	運用体制と活動期間	11
(3)	活動区分別の活動計画	14
(4)	活動人数・募集人数等の試算	19
(5)	人材の発掘、確保のための取組	22
3 .	藤沢市独自のボランティアの展開	27
(1)	基本的な考え方	27
(2)	参加募集型プロジェクトの展開	28
(3)	企画提案型プロジェクトの展開	29
4 .	(仮称)市民応援団を通じた市民参加の展開	30
(1)	基本的な考え方	30
(2)	取組方策	30
(3)	展開アイデア例	32
5 .	推進体制と実施計画ロードマップ	33
(1)	推進体制	33
(2)	実施計画ロードマップ	34
6 .	レガシー計画～取組成果の継承策	35
(1)	大会関連ボランティアの検証調査	35
(2)	ボランティアへの感謝の表明	35
(3)	参加者情報の継承	36
(4)	ボランティアが活躍する場の拡充とマネジメント機能の整備	36
(5)	「チーム藤沢」形成のための体制整備	36

1. 計画策定にあたって

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会^(注1-1)のセーリング競技会場となる藤沢市での大会関連ボランティア^(注1-2)等の実施計画を立案する上で前提となる事項を整理し、計画の枠組みを定める。なお、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会^(注1-3)、東京都及び神奈川県による都市ボランティア等に関する取組状況との整合を図り、本計画については適宜見直しを行っていく。

藤沢市の市政運営の基軸となる「藤沢市市政運営の総合指針 2020」では、「『2020年』に向けてまちの魅力を創出する」ことがまちづくりテーマの一つとなっている。そして、その具現化に向けた市民協働組織として「未来につなぐ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市支援委員会」^(注1-4)を立ち上げ、東京 2020 大会に向けた取組を推進している。

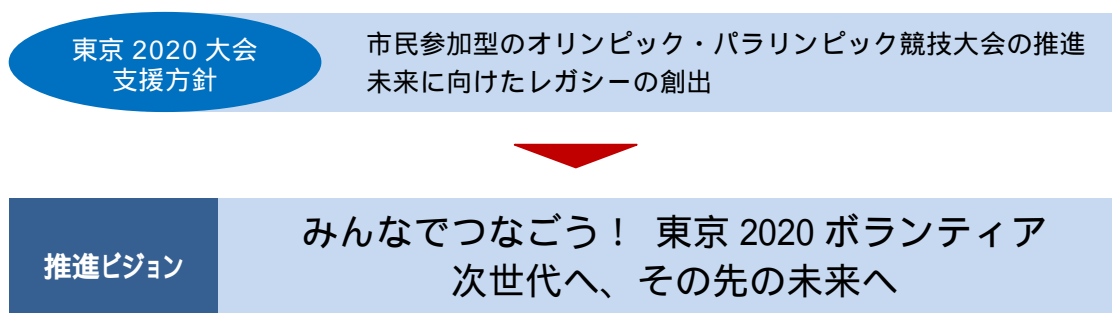
(1) 藤沢市と藤沢市支援委員会の基本方針

藤沢市支援委員会による「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会藤沢市支援方針」では、「市民参加型のオリンピック・パラリンピック競技大会を推進する」とことと、「未来に向けたレガシーを創出する」ことの2点を取組の基本方針としている。

また、この方針にそって平成 29 年 6 月には、東京 2020 大会と大会後を見据えた大会関連ボランティア等の取組の基本計画として「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた藤沢市大会関連ボランティア等推進計画」^(注1-5)を策定している。

そのビジョンと戦略方針、各戦略方針に対応した重点プロジェクトは次のとおりである。

藤沢市・藤沢市支援委員会の取組方針



(注1-1) 本計画では、「東京 2020 大会」と略記する。

(注1-2) 本計画では、東京 2020 大会に関連したボランティアを総称して「大会関連ボランティア」と表記する。

(注1-3) 本計画では、「組織委員会」と略記する。

(注1-4) 本計画では、「藤沢市支援委員会」と略記する。

(注1-5) 本計画では、「推進計画」と略記する。

戦略方針	重点プロジェクト
1) 東京 2020 大会開催の「風」を最大限に利用し、市民全員参加を促します	東京 2020 参画プログラム ^(注1-6) の活用 の推進
2) セーリングの拠点として、ボランティアを持続、定着させます	海の資産を活用した交流促進事業
3) 東京 2020 大会のボランティア気運を、地域福祉や観光等の分野に橋渡ししていきます	市民の参画によるボランティア体制の構築やパラリンピック支援を通じたボランティアマインドの醸成
4) 全てのボランティア活動を分野横断的に連携させる「チーム藤沢」の仕組みを構築します	藤沢を知り、考え、活動する仕組み、体制の構築とレガシー化

重点プロジェクトにおける個別の取組については、本計画において一部を記載した。今後、さらなる具体化を図っていく。

(2) 東京 2020 大会におけるボランティア戦略等

東京都と組織委員会は、平成 28 年 12 月に、「東京 2020 大会に向けたボランティア戦略」^(注1-7)を公表している。その基本的な考え方は、以下のとおりである。

ア 大会ボランティアと都市ボランティア

東京 2020 大会を支えるボランティアには、大会関係施設において会場内の案内・誘導などの運営支援を行う「大会ボランティア」と、大会期間中、空港や主要駅、観光地等において、国内外からの旅行者に対する観光・交通案内や、競技会場の最寄駅周辺で観客への案内等を行う「都市ボランティア」がある。その概要を次の表に示す。

大会ボランティアと都市ボランティア

	大会ボランティア	都市ボランティア
運営主体	組織委員会	東京都・競技会場を有する都外の自治体
活動場所	競技会場、選手村などの大会関係施設	空港・主要駅・観光地及び競技会場の最寄駅周辺
活動内容	観客サービス、競技運営のサポート、メディアのサポートなど	国内外の旅行者に対する観光・交通案内及び競技会場の最寄駅周辺における観客への案内など

^(注1-6) 東京 2020 参画プログラム：多様な主体が、東京 2020 大会への参画や気運醸成、レガシー創出に向けた取組を実施できる仕組み。一定の条件を満たせば、組織委員会から認証を受けられ、「オリンピック・パラリンピック」等の文言や規定のマークが使用できる。

^(注1-7) 本計画では、「東京都・組織委員会によるボランティア戦略」と表記する。

大会ボランティアは組織委員会が、都内における都市ボランティアは東京都が募集・研修・運営を行う予定である。都外の都市ボランティアについては、競技会場を有する都外自治体それぞれにおいて設置に向けた検討を行っており、藤沢市は神奈川県と連携し、設置・運営に向けて取組を進めている。

イ 東京 2020 大会におけるボランティアの方針

東京都・組織委員会によるボランティア戦略では、ボランティアの活動内容や取組方針について、次のように記載されている。

(ア) ボランティアの活動内容

大会ボランティアの主要な活動内容として、会場内案内・誘導、メディアや選手団サポートなど、14の活動内容があげられている。

一方、都市ボランティアの活動内容としては以下が想定されている。

- ・ 空港、主要ターミナル駅、観光地等に設置するブースにおいて選手・大会関係者や、国内外からの旅行者に対する観光・交通案内を行う。
- ・ 競技会場の最寄駅周辺において観客へ案内等を行う。

また、両ボランティアの中に、メンバーの出欠確認、連絡調整などを行うリーダー役をおくこととされている。

なお、大会ボランティア・都市ボランティアともに無償での活動となり、東京都・組織委員会によるボランティア戦略では、原則として東京までの交通費を負担していただくこと、宿泊場所の確保にあたっては自己手配をお願いすることになるが、宿泊に関する情報提供について検討することとされている。

一方、ボランティアに提供されるものとしては、活動意欲を高め、一体感や誇りを感じられるようなユニフォームや研修、飲食の提供などについて、今後詳細を検討していくこととされている。

(イ) 取組方針～多様な人々の参加

東京 2020 大会の大会ビジョンの中に掲げられている「多様性と調和」の考え方にそって、障がい者、児童・生徒、働く世代・子育て世代など、多様な人々がボランティアとして参加できる取組を推進する方針が打ち出されている。

(ウ) 競技会場を有する自治体との連携

藤沢市等競技会場を有する自治体との連携方針については、「都と組織委員会は都外の競技会場を有する自治体と、それぞれ運営するボランティアが効果的に活動できるよう、必要な部分について一体的な取組の推進を検討していく。具体的には、都市ボランティアのユニフォームや活動拠点の装飾等について、統一的なデザインを採用することの検討や、接遇や大会情報など研修の一部を共有化するなど、都市ボランティアによる案内の質的向上を目指していく」とされている。

ウ 募集人数及びスケジュール

(ア) 募集人数

大会ボランティアはオリンピックとパラリンピック合わせて8万人、東京都の都市ボランティアは3万人とされている。

(イ) 大会ボランティアに関するスケジュール

日 程	内 容
平成 30 年（2018 年）7 月下旬	募集要項発表
平成 30 年（2018 年）9 月中旬	応募受付開始
平成 31 年（2019 年）2 月～7 月	面接実施
平成 31 年（2019 年）10 月～	共通研修開始
平成 32 年（2020 年）3 月～	役割通知
平成 32 年（2020 年）4 月～	役割別研修開始
平成 32 年（2020 年）5 月～	ユニフォーム等配布
平成 32 年（2020 年）6 月～	会場別研修開始

藤沢市は、東京都・組織委員会によるボランティア戦略等と歩調を合わせ、東京都・組織委員会と緊密な連携を図りながら、本計画にそってボランティア等の取組を推進していく。

(3) 取組の体系と(仮称)市民応援団

ア 取組の全体像

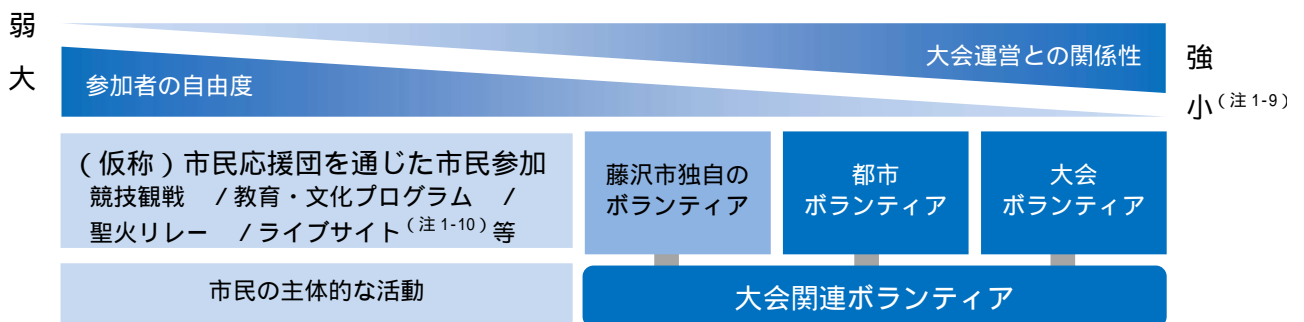
東京2020大会を幅広く多様な市民が参加する大会とするため、組織委員会によって運営される大会ボランティア、神奈川県及び藤沢市が運営する都市ボランティアとともに、東京2020大会に関連して藤沢市が独自に運営するボランティアの取組を推進する。

また、これらの大会関連ボランティア以外にも市民グループや各種団体が独自に実施するボランティア活動^(注1-8)が想定される。また、競技会場やパブリックビューイングでの観戦、聖火リレー、大会参加国・地域の事前キャンプなどでの応援や交流、大会関連の教育プログラムや文化プログラム等の機会を通じ、様々な市民参加の機会を創出していく。これらの取組の体系と全体像を下図に示す。

取組の体系

	区分	活動内容	運営主体
大会 関連 ボラ ンテ ィア	大会ボランティア	競技会場内等で大会運営の各種サポートを行う	組織委員会
	都市ボランティア	会場へのアクセスルートや主要交通拠点等で観戦客に対する案内、誘導や観光ガイドを行う	神奈川県、藤沢市
	藤沢市独自のボランティア	大会及び都市ボランティアの枠組み以外の形態で藤沢市が独自に展開する活動	藤沢市
	(仮称)市民応援団を通じた市民参加	大会に関連する行事などに多様な形で関与、参加できる機会を創出する	藤沢市
	市民の主体的な活動	市内の市民グループや団体が独自に行う大会盛り上げ等のための自主的活動	各種団体・グループ

藤沢市の取組～市民参加とボランティアの全体像



聖火リレー、ライブサイト等におけるボランティアについては、今後の取組の進捗に合わせて、改めて位置づけを行っていく。

(注1-8) 本計画では、「市民の主体的な活動」と表記する。

(注1-9) 大会ボランティアや都市ボランティアは、組織委員会や藤沢市などが定める規約・ルールの下で活動するため、参加者の自由度は自主的な活動に比べて相対的に小さい。

(注1-10) ライブサイト：大型映像でのパブリックビューイングやスポーツ体験アトラクション等が楽しめるイベント広場で、東京2020大会期間中に開催都市等に設置される予定である。

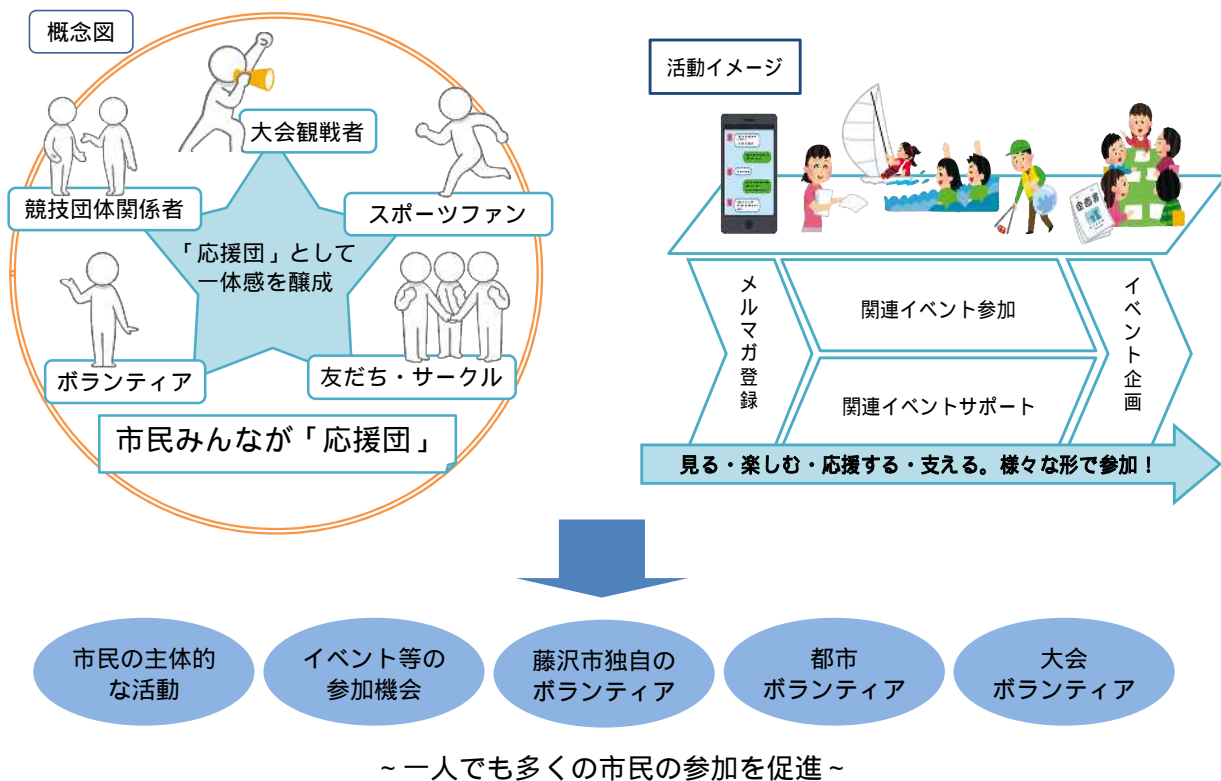
イ（仮称）市民応援団について

一人でも多くの市民が参加するための仕組みとして、（仮称）市民応援団を設立する。

（仮称）市民応援団は、「東京 2020 大会を盛り上げたい」という気持ちがあれば、市内外・個人団体を問わず誰もが応援団員であることを掲げ、2020 年に向けて盛り上がりの共有を図ることを目的とする。

具体的には、大会関連のイベント情報が届くメールマガジンへの登録をはじめ、ウェブサイトや SNS 等を入り口に、気軽に参加できる活動を準備し、東京 2020 大会への主体的な参加を促していく。

（仮称）市民応援団のイメージ



(4) 計画の枠組み

ア 計画の目的

推進計画を踏まえ、東京 2020 大会における藤沢市のボランティア等の取組を円滑、かつ効果的に展開し、市民参加型のオリンピック・パラリンピック競技大会を具現化し、未来に向けたレガシーを創出することを目的とする。

イ 計画の主体

藤沢市及び藤沢市支援委員会（ボランティア等市民参加推進部会）を主体として、本計画を推進する。

ウ 計画の位置づけ

本計画では、東京都・組織委員会によるボランティア戦略、及び藤沢市の推進計画を踏まえ、大会後も見据えて東京 2020 大会における藤沢市大会関連ボランティア等の取組の範囲と活動内容、実施方法等について定め、以降の具体的な施策・事業の指針とする。

エ 計画の対象

本計画の対象は、大会関連ボランティアのうち、藤沢市と藤沢市支援委員会が中心となって推進する都市ボランティア、藤沢市独自のボランティアとする。

大会ボランティアは、組織委員会が募集・研修・運営を行うため、藤沢市として募集広報などにより連携、協力する。

また、（仮称）市民応援団を通じた市民参加についても本計画で実施の考え方を整理する。

なお、本計画における大会関連ボランティア等の募集に際しては、藤沢市への在住・在勤・在学等に関わらず、広く参加を促進する。

オ 計画期間と見直し

平成 30 年度から平成 32 年度までとし、進捗状況や気運醸成の状況等を確認しながら適宜改定しつつ、本計画で定める施策・事業を推進していく。

(5) 計画の策定方針

東京都・組織委員会によるボランティア戦略、及び藤沢市の推進計画を踏まえ、次の方針にそって大会関連ボランティア等の実施計画を策定する。

ア 策定方針

(ア) 多くの市民が参加できる計画

性別や年代、障がいの有無などに関わらず、幅広い層の市民に対して主体的な参加を促し、その実践を通して、大会を心から楽しみ、大会運営への支援や来訪者との交流を通じて自己実現が図られるよう配慮した計画とする。

(イ) 自治会・町内会、市民団体・NPO や大学との連携

大会関連ボランティアや（仮称）市民応援団を通じた市民参加の効率的、かつ効果的な展開に向けて、自治会・町内会や、市民ボランティア団体・NPO 等と連携して取組を推進する。また、大学等との連携により、学識経験者の知見を計画にいかすとともに、留学生を含めた大学生の積極的な参加を促す。

(ウ) 大会後も見据えた計画

東京 2020 大会におけるボランティア等の取組を一過性に終わらせず、大会を契機にスポーツをはじめ多様な分野で藤沢市にボランティア文化がさらに定着することを目指した計画とする。

(エ) 組織委員会等と整合した計画

組織委員会・東京都の方針を踏まえ、組織委員会の関連計画、取組と整合を図る。都市ボランティア等の取組については、組織委員会・東京都・神奈川県と調整段階にあるため、具体的な取組内容や役割分担が明らかになった時点で、本計画について適宜見直しを行っていく。

イ 留意点

上記の策定方針にそって実施計画を具現化するうえでは、次の点に留意しつつ個別の取組についての検討を行い、関係機関や諸団体との調整を図る。

- ・ ボランティア参加者の安全確保
- ・ 多様な参加者への企画・準備段階からの参加機会の創出
- ・ 児童・生徒の参加・体験機会の創出

-
- ・ 参加者間の交流・連携の推進
 - ・ ボランティアスキル向上の支援
 - ・ 年代や就労形態、家族構成等の属性やニーズに配慮した参加機会の創出
 - ・ 大会後の多様な分野への波及

2. 都市ボランティア活動計画

東京 2020 大会オリンピック・セーリング競技会場での都市ボランティアの活動内容、人数規模、運用体制等の活動計画を定める。

(1) 活動内容及び配置等の考え方

都市ボランティアの活動内容と役割、及び配置（活動場所）の考え方は次の表のとおりとする。

都市ボランティアの活動内容

活動区分	役割分類	主な活動内容	配置の考え方
案内・誘導ボランティア	大会案内	<ul style="list-style-type: none"> 大会日程や競技会場等に関する案内・情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 会場への鉄道アクセス上の拠点駅である藤沢駅、及び小田急電鉄、江ノ島電鉄、湘南モノレール各線の会場最寄 3 駅に配置 最寄駅から会場までのアクセスルート上の主要ポイントに配置
	競技会場アクセス案内	<ul style="list-style-type: none"> 競技会場までの案内・誘導 	
	交通案内	<ul style="list-style-type: none"> 目的地までの交通機関、乗換、利用方法等の案内 	
	観光・タウン情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 観光ガイド・マップの配布や観光情報の提供 土産品店、飲食店などのタウンガイド 	
	サポートが必要な方への対応	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者、高齢者、妊婦、小さな子ども連れなどサポートが必要な方の介助、移動補助など 	
	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 観光客等の安全・安心のためのサポート 	
観光ボランティア	観光案内 ^(注2-1)	<ul style="list-style-type: none"> ガイドツアー 周遊ルート等の提案 	<ul style="list-style-type: none"> 会場へのアクセスルート上にある観光案内所 会場周辺の主要観光ポイント(仮設ブースやカウンターを設置)
本部サポートボランティア	ボランティア本部(P11 参照)の支援	<ul style="list-style-type: none"> 事務や各種連絡作業などの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア本部に常駐
言語サービスボランティア	多言語対応	<ul style="list-style-type: none"> 上記活動における多言語での対応(通訳) 	<ul style="list-style-type: none"> 上記活動場所等^(注2-2)
救護ボランティア	救護	<ul style="list-style-type: none"> 来訪者やボランティアの急病や怪我等の救護対応 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア本部等

(注2-1) 文化プログラム、ライブサイト(パブリックビューイング)等大会関連行事の案内、PR 活動も必要と想定される。

(注2-2) 都市ボランティアの活動場所の他、ICT 技術を活用した遠隔地での対応方法についても検討する。

なお、活動内容及び配置については、鉄道事業者をはじめとした各関係者との連携を図り、協議をする中で随時見直しを行っていく。

(2) 運用体制と活動期間

ア 運用体制

(ア) ボランティア本部

運用にあたっては、都市ボランティアを統括するボランティア本部を設置し、ボランティアの要員配置、出退勤管理や運用における各種調整等を行う。

本部には、藤沢市、藤沢市支援委員会スタッフとともに本部サポートボランティアを配置する。本部サポートボランティアは、事務処理やボランティアとの連絡業務、ボランティアチーム間の調整等の支援を行う。

(イ) チーム編成

ロンドン 2012 大会セーリング競技会場の都市ボランティアであるウェイマス・ポートランド・アンバサダーは、10 人単位にチーム編成が行われ、チーム別にローテーション（交代制）が組まれた。

本計画では、この事例を参考にチーム編成を行うこととした。

なお、ボランティア活動にあたっては、ボランティア自身の安全確保や事故、緊急時対応などを考慮し、2 人、または 3 人を最小単位（ユニット）として活動を行う前提とした。

・案内・誘導ボランティア

ウェイマス・ポートランドの事例をもとに、メンバー 10 人とチームリーダー 1 人の計 11 人を基本単位として配置し、ローテーションを行う^(注2-3)。なお、メンバーのうち 1 人をサブリーダーとして選任し、休憩などチームリーダー不在時の緊急対応等にあたる。

・観光ボランティア

観光ボランティアは、単位時間に対応する人数が案内・誘導ボランティアより少ないと想定されるため、メンバー 5 人とチームリーダー 1 人の計 6 人を基本単位として配置し、ローテーションを行う。なお、メンバーのうち 1 人をサブリーダーとして選任し、休憩などチームリーダー不在時の緊急対応等にあたる。

(注2-3) ウェイマス・ポートランドの事例は、リーダーを含めて 10 人のチーム編成となっているが、本計画では、非常時などにおけるリーダーの役割の重要性を勘案し、メンバー 10 人とリーダー 1 人の計 11 人をチーム単位に設定した。

・本部サポートボランティア

ボランティア本部を支援する本部サポートボランティアは、3人を単位としてチーム編成し、ローテーションを行う。

また、チームリーダーとボランティア本部をつなぐ役割として、本部サポートボランティアのうち1人をコーディネーターとし、各チームのリーダーをサポートするとともに、チーム間の連携や調整役を担う。

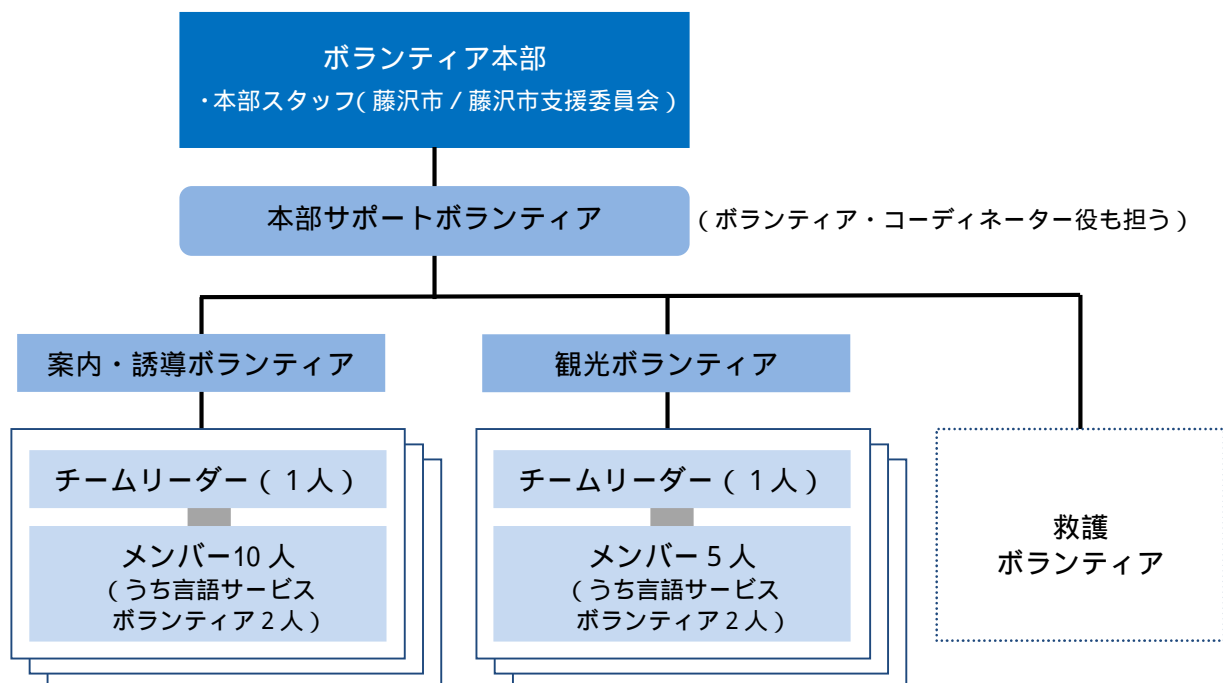
・言語サービスボランティア

一定水準以上の外国語会話能力を有するボランティア人材を、案内・誘導、及び観光ボランティアチーム内に一定人数配置して、多言語での対応を可能とする。

・救護ボランティア

救護については、観客や観光客、ボランティア等に対して救護対応を行える体制が必要となるが、医師会、病院等との連携など、組織委員会が担う大会ボランティアの対応と整合させる必要があるため、組織委員会と調整の上、別途検討を行う。

都市ボランティアの運用体制



イ 競技開催期間の想定

本計画の前提となる競技開催期間は、東京 2020 大会立候補ファイルに基づき、次の表のとおり仮設定する。競技日程が確定した時点で、必要に応じて内容を適宜、修正する。

都市ボランティア活動期間

日程（平成 32 年）	競技時間	内容（金メダル数）	活動日
1	7/24（金）	20:00～23:00	開会式
2	7/25（土）		競技前日
3	7/26（日）	12:00～18:00	
4	7/27（月）	〃	
5	7/28（火）	〃	
6	7/29（水）	〃	
7	7/30（木）	〃	
8	7/31（金）	〃	
9	8/1（土）	〃	
10	8/2（日）	12:00～18:20	決勝（2）
11	8/3（月）	〃	〃
12	8/4（火）	〃	〃
13	8/5（水）	12:00～18:10	決勝（1）
14	8/6（木）	〃	〃
15	8/7（金）	〃	〃
16	8/8（土）	〃	〃
17	8/9（日）	21:00～24:00	閉会式
活動日計		15 日間	

(3) 活動区分別の活動計画

ア 案内・誘導ボランティア

(ア) 配置計画

案内・誘導ボランティアの配置場所は次の表のとおりとする。

案内・誘導ボランティア配置場所一覧

	NO.	配置場所
交通拠点	T01	片瀬江ノ島駅（小田急電鉄）
	T02	江ノ島駅（江ノ島電鉄）
	T03	湘南江の島駅（湘南モノレール）
	T04	藤沢駅（JR 東日本・小田急電鉄・江ノ島電鉄）
会場周辺 アクセスルート	P01	片瀬江の島観光案内所周辺
	P02	藤沢市観光センター周辺
	P03	江の島入口交差点地下歩道
	P04	江の島観光案内所周辺

案内・誘導ボランティア配置プラン



(イ) ローテーションと活動パターン

1日5時間活動を前提に、競技時間に合わせて、チーム単位に次の表の時間帯で3交代のローテーションを行う。

チームローテーション

時間帯	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
競技時間帯													
ローテーション													
ローテーション													
ローテーション													

会場周辺の活動ポイントでは、屋外での活動が基本となるため、夏季の高温多湿環境を踏まえ、一人最大2時間活動した場合には、30分以上の休憩をとることを基本ルールとして、次の表のとおり活動時間帯で交代シフトを組む。なお、高齢者を含む多様な世代の参加を前提としているため、このシフト案については、テストイベント等での検証の結果を踏まえて調整するものとする。

チームごとの活動パターン

メンバー区分	活動時間帯				
	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目
リーダー			休		
A (サブリーダー)		休		休	
ユニット1	B		休		
	C		休		
	D		休		
ユニット2	E	休		休	
	F	休		休	
	G	休		休	
ユニット3	H		休		休
	I		休		休
	J		休		休

各チームに最低2人は、多言語対応可能な言語サービスボランティアを配置する。

イ 観光ボランティア

案内・誘導ボランティアと連携して、藤沢市の観光施設・スポットや街歩きの案内を行う観光ボランティアを市内主要観光ポイントに配置する。なお、観光ボランティアの活動内容や配置については、(公社)藤沢市観光協会をはじめとした関係者等の意見を聴き、見直しを行っていくものとする。

(ア) 配置計画

観光ボランティアの配置場所は次の表のとおりとする。

NO.	配置場所
S01	片瀬江の島観光案内所
S02	藤沢市観光センター
S03	江の島観光案内所
S04	湘南 FUJISAWA コンシェルジュ
S05	連絡船乗り場(1)
S06	" (2)
S07	江の島内主要ポイント

観光ボランティア配置プラン



(イ) チーム編成と活動パターン

(公社) 藤沢市観光協会と連携し、観光案内所等の案内スタッフ、市内の観光関連のボランティアが中心となり、都市ボランティアメンバーを交えてチーム編成を行う。

チームローテーションは、案内・誘導ボランティアと同様に3交代とする。活動パターンについては、次の表を基本に、拠点ごとの特性や専門スタッフの状況により個別に検討する。

チームごとの活動パターン

メンバー区分	活動時間帯				
	1 時間目	2 時間目	3 時間目	4 時間目	5 時間目
リーダー		休		休	
A (サブリーダー)		休		休	
ユニット1 B		休		休	
C		休		休	
ユニット2 D		休		休	
E		休		休	

各チームに最低2人は、多言語対応可能な言語サービスボランティアを配置する。

ウ 本部サポートボランティア

事務処理や各種連絡・調整業務支援によってボランティア本部の運営を支える。

案内・誘導ボランティアと同様のローテーションで要員を配置する。うち1人はチームリーダーを支援するコーディネーター役を担う。

エ ボランティア活動拠点の検討

都市ボランティアの活動では、メンバーの一時休憩、ミーティング、関連資材置き場などに利用する活動拠点が必要となるため、本計画の策定にあたり街歩きを行い、考えられる候補地の検討を行った。各設置場所候補を一定期間占有利用するには、今後、それぞれの所有者や主要利用団体と調整を図る必要があるため、早期に関係機関に打診し、働きかけを行う。

ボランティア活動拠点設置場所候補一覧（案）

NO.	設置場所候補	現況など
B01	片瀬市民センター	片瀬地区人材・情報バンクセンターとの連携が期待できる。
B02	片瀬地区ボランティアセンター	地域の福祉活動等の拠点となっているため、利用調整が必要となる。
B03	藤沢市観光センター	江の島・藤沢市の観光情報の拠点でもあり、都市ボランティアの活動に有益な拠点となる。
B04	江の島市民の家	江の島配置の観光ボランティアの活動拠点として利用することも考えられる。
B05	藤沢駅周辺	駅ビル内、もしくは近隣の会議室等を活動拠点として確保する必要がある。

ボランティア活動拠点設置場所候補プラン



(4) 活動人数・募集人数等の試算

前述のローテーションと活動パターンを前提として、都市ボランティアの活動人数、及び募集人数を試算する。

ア チーム別要員数

活動区分別のチーム別要員数は表1のとおりである。

チーム別要員数(表1)

(単位:人)

チームタイプ	リーダー	案内・誘導ボランティア	観光ボランティア	言語サービスボランティア	本部サポートボランティア	合計
案内・誘導ボランティア	1	8	-	2	-	11
観光ボランティア	1	-	3	2	-	6
本部サポートボランティア	-	-	-	-	3	3

イ 活動延べ人数

期間中に活動する都市ボランティアの延べ人数を表2に示す。

活動期間の15日間の合計で、全体の延べ活動人数は6,750人となる。

活動延べ人数(表2)

(単位:人)

No	配置場所	チーム数	チーム人数	ローテーション数														合計
				7月							8月							
				25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	
(1) 案内・誘導ボランティア																		
T01	片瀬江ノ島駅	1	11	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	495
T02	江ノ島駅	1	11	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	495
T03	湘南江の島駅	1	11	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	495
T04	藤沢駅	2	11	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	990
P01	片瀬江の島観光案内所周辺	1	11	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	495
P02	藤沢市観光センター周辺	1	11	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	495
P03	江の島入口交差点地下歩道	1	11	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	495
P04	江の島観光案内所周辺	1	11	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	495
	小計																	4,455
(2) 観光ボランティア																		
S01	片瀬江の島観光案内所	1	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	270
S02	藤沢市観光センター	1	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	270
S03	江の島観光案内所	1	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	270
S04	湘南 FUJISAWA コンシェルジュ	1	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	270
S05	連絡船乗り場(1)	1	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	270
S06	連絡船乗り場(2)	1	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	270
S07	江の島内主要ポイント	2	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	540
	小計																	2,160
(3) 本部サポートボランティア																		
H01	本部サポート	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	135
	小計																	135
	延べ人数合計																	6,750

配置場所別の活動延べ人数(合計人数) = (チーム数 × チーム人数 × 日別ローテーション数) <活動日>

チーム数の設定について

動線が複雑で案内・誘導ニーズが高いと想定される藤沢駅と多数の観光客が集中すると見込まれる江の島内主要ポイントには2チームを配置し、他の場所には1チームを配置する。

ウ 活動人数・募集人数

試算結果によると、活動区分別活動延べ人数、実人数及び募集人数は、表3のとおりとなる。

試算結果では、一人あたりの平均活動日数を10日間と想定すると、実人数で675人のボランティアを確保する必要があり、募集人数の目安は840人（実人数の2割増・概算）となる。

活動区分別人数（表3）

（単位：人）

No	配置場所	活動区分別内訳					合計
		リーダー	案内誘導	観光	言語サービス	本部サポート	
(1) 案内・誘導ボランティア							
T01	片瀬江ノ島駅	45	360	0	90	0	495
T02	江ノ島駅	45	360	0	90	0	495
T03	湘南江の島駅	45	360	0	90	0	495
T04	藤沢駅	90	720	0	180	0	990
P01	片瀬江の島観光案内所周辺	45	360	0	90	0	495
P02	藤沢市観光センター周辺	45	360	0	90	0	495
P03	江の島入口交差点地下歩道	45	360	0	90	0	495
P04	江の島観光案内所周辺	45	360	0	90	0	495
	小計	405	3,240	0	810	0	4,455
(2) 観光ボランティア							
S01	片瀬江の島観光案内所	45	0	180	45	0	270
S02	藤沢市観光センター	45	0	180	45	0	270
S03	江の島観光案内所	45	0	180	45	0	270
S04	湘南 FUJISAWA コンシェルジュ	45	0	180	45	0	270
S05	連絡船乗り場(1)	45	0	180	45	0	270
S06	連絡船乗り場(2)	45	0	180	45	0	270
S07	江の島内主要ポイント	90	0	360	90	0	540
	小計	360	0	1,440	360	0	2,160
(3) 本部サポートボランティア							
H01	本部サポート	0	0	0	0	135	135
	小計	0	0	0	0	135	135
	延べ人数合計	765	3,240	1,440	1,170	135	6,750
	実人数(平均10日間活動想定)	77	324	144	117	14	675
	募集人数(2割増・概算)	100	390	180	150	20	840

（参考）ウェイマス・ポートランド・アンバサダー事例での活動時間等

ボランティア人数	約500人	総活動時間	30,000時間
1人あたり活動時間	60時間		
1人あたり活動日数	10日間（1日あたり活動時間を6時間と想定）		

(5) 人材の発掘、確保のための取組

ア 広報・啓発方策

多様な市民の参加を促すため、都市ボランティアについて積極的に広報展開し、市民への啓発を行っていくことが求められる。

また、都市ボランティアは、大会運営に直接関与できる機会の多い大会ボランティアに比べて一般の関心、参加意向が相対的に低くなると考えられるため、人員確保にあたっては戦略的な対応が必要となる。

このため、募集までの期間や募集期間中に次の活動を展開する。

(ア) 大会事前イベントとの連動

推進計画の重点プロジェクトにそって展開するカウントダウンイベント等の事前イベントと連動して都市ボランティアの紹介を行う。募集期間中の場合、イベント会場での応募受付等についても検討する。

なお、事前イベント等については、藤沢市を中心に、藤沢市支援委員会をはじめとする関係団体や大学等と連携を図り実施する。

(イ) 地元メディアへの働きかけ

地元メディア関係者への説明会等でのきめ細かな情報提供により、メディア・パブリシティ^(注2-4)によって都市ボランティアについての市民の認知拡大を図る。

(ウ) 入門講座・事前セミナーやシンポジウムの開催

平成29年度に引き続き大会関連ボランティアに関する入門講座を開催するほか、都市ボランティアに対して関心が高いと思われるNPOやボランティア団体関係者、自治会・町内会等の中心メンバー層を対象として都市ボランティアに関するセミナーや先行大会の他都市の取組事例を紹介するシンポジウム等を開催し、市民リーダー層の参加意向を高めていく。

また、障がい者の参加を促進するため、障がい者、及びその支援団体との意見交換や取組の具体案を検討するワークショップ等の開催も検討する。

(エ) 大学と連携した取組み

大学と連携し、学内でのセミナーや説明会の開催によって学生参加を促していく。

^(注2-4) メディア・パブリシティ：テレビのニュースや番組、新聞や雑誌記事で取り上げられることによる情報発信効果のこと。

また、留学生が言語サービスボランティアとして参加できるよう、大学と情報共有をしつつ具体的な方策を検討する。

(オ) 世代別の参加促進

働く世代・子育て世代や高齢者の参加を促すため、庁内関係部署と連携し、対象世代の関心・参加率が高い行事やイベントの機会を通じて都市ボランティアに関する情報(同年代ボランティアの活動レポート等)を提供し、興味、関心を喚起する。

(カ) 観光ボランティアガイド等との組織的連携

観光ボランティアや安全・安心を担保するための人材確保にあたっては、関係団体や、既存の市民ボランティア団体等に働きかけて組織的な連携を図り、専門知識、経験を有する人材を確保する。

イ 募集条件

東京都・組織委員会によるボランティア戦略における都市ボランティアの募集条件を踏まえ、藤沢市の都市ボランティアの募集基本条件は次のとおりとする。

基本的な募集条件

平成 32 年(2020 年)4 月 1 日時点で満 18 歳以上の方
ボランティア研修に参加可能な方
オリンピック期間を通じて、5 日以上(1 日 5 時間以上)活動できる方
東京 2020 大会成功に向けて、情熱をもって最後まで役割を全うできる方
お互いを思いやる心を持ちチームとして活動したい方

なお、募集条件の詳細については、東京都・組織委員会の募集条件を基本に検討、決定する。また、東京 2020 大会の基本コンセプトの一つである「多様性と調和」の考え方にに基づき、障がい者、児童・生徒、働く世代・子育て世代など、多様な人々が大会に参加できるよう、取組を進める。

ウ 募集方法とスケジュール

東京都・組織委員会によるボランティア戦略では、応募方法として「原則としてウェブを通じた応募の他、郵送等の手段についても検討していく」との方針が示されている。また、ウェブでの応募は、「多様な人材が応募しやすい画面設計などアクセシビリティを踏まえた」もので、「パソコンだけでなく、携帯電話、スマートフォン、タブレットから

も応募できるような応募フォームを検討していく」とされている。

藤沢市では、この方針と整合を図った上で、独自の応募受付のウェブサイトを用意し、募集を行う。

募集のスケジュールは、次の表のとおりとする。

都市ボランティアの募集スケジュール

募集区分	時期	募集人数	備考
1次募集	平成30年(2018年)9月以降～定員に達するまで	50人～100人	<ul style="list-style-type: none">組織委員会の大会ボランティア募集開始時期と同期して募集を開始する。主としてリーダー役となる人材の育成を目的として募集人数を設定する。(試算結果では100人/P21参照)
2次募集	平成31年(2019年)4月～平成32年(2020年)3月頃	800人程度	<ul style="list-style-type: none">セーリングワールドカップシリーズ等の機会に配置別研修等を行う。

1次募集で選考されたボランティアについては、東京2020大会関連イベントをはじめ、藤沢市や近隣市町で開催されるスポーツ、文化イベントなどの機会に実務研修やリーダー人材育成研修を行う。

エ 選考方法

応募者が募集人数を上回った場合は、書類選考、及び必要に応じて面接、電話等によるヒアリング等を行い、採用者を選抜する。

選考基準の詳細については、今後検討する。

選考にあたっては、ボランティア参加者間の交流を通じて、大会後の多様なボランティアの定着、発展につなげるため、年齢構成、経験者と初心者、地域などのバランスに配慮する。また、言語サービスボランティアへの在住外国人や留学生の参加についても一定数を確保することを検討する。

なお、落選した方には、(仮称)市民応援団への加入や後述の藤沢市独自のボランティア活動を紹介、参加を促す等の工夫により、大会への参加意欲が継続するように配慮を行う。

オ 研修方法と実施要件

都市ボランティアが「藤沢市の顔」として、観戦等のために国内外から訪れる人々に対して良質のおもてなしを提供するために必要な研修を実施する。研修にあたっては、参加者の学習意欲を刺激し、ボランティア能力向上に自主的に取り組めるよう配慮する。

研修内容の概要は次の表のとおりである。

都市ボランティアの研修内容

区分	主な内容
共通研修	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市ボランティアの活動に必要な基礎的知識について学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ✓ オリンピック・パラリンピックに関する知識 ✓ ダイバーシティ（多様性）や共生社会に対する理解 ✓ ユニバーサルデザインについての理解 ✓ 都市・地球環境の持続可能性についての理解 ✓ スポーツイベントを支えるボランティアの役割 ✓ 来訪者を迎える接遇・マナーの基本 ✓ セーリング競技や会場に関する基本知識
役割別研修	<ul style="list-style-type: none"> ● 案内・誘導、観光、本部サポート、言語サービスの活動区別に、必要な知識や来訪者の問合せ、相談等に対する基本対応方法等を習得する
配置別研修	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動区別に活動場所を想定したシミュレーションを行い、現場での活動を検証し、対応能力の向上を図る
リーダー研修	<ul style="list-style-type: none"> ● 応募者の中から、ボランティア活動経験等を元にコーディネーターやチームリーダー候補者を選抜し、リーダーとして求められる役割や実務的知識、緊急事態や突発的事案等への対応能力を身につけるための研修を行う

なお、東京都・組織委員会との間で研修の一部を共有化するなど、一体的な取組が検討されていることから、その方針が定まった時点で研修プログラムや実施方法の具体案について、神奈川県と連携して検討、決定する。

また、配置別研修の機会については、平成 30 年（2018 年）から平成 32 年（2020 年）まで毎年開催が予定されているセーリングワールドカップシリーズをはじめ、大会関連の事前イベントや関連行事（カウントダウンイベントや聖火リレー等）、地域で開催される各種スポーツ大会等の機会を有効活用するとともに、その結果をその後の研修内容や運用計画等にフィードバックすることで 2020 年の大会本番でのより良い活動につなげていく。

(参考) ロンドン 2012 大会 ウェイマス・ポートランド・アンバサダー (都市ボランティア) の研修
概要

ウェイマス・ポートランド・アンバサダーの研修では、4時間研修と2時間研修の2回の基本研修を全員が受けた後、追加の研修がアンバサダーの種類ごとに実施された。

研修セッションの様子はビデオ録画され、出席できなかった方も必要に応じて個別に参照できるよう工夫された。

アンバサダー研修の概要

種類	基本研修	追加研修等
ジェネラル・アンバサダー	1日(基本研修として4時間と2時間、2回の研修)	なし
ライブ会場アンバサダー		1日を限度とする追加研修
語学アンバサダー		半日を限度とする追加研修
チームリーダー・アンバサダー		半日を限度とする追加研修 ライブサイト会場でのチームリーダーは1日半を限度とする追加研修

研修プログラムの具体的な内容には、次の項目が含まれていた。

アンバサダー研修プログラムの具体的な内容

1	来訪者を歓迎するための基本的な手話
2	多様性の受け入れ (Diversity & Inclusion)、民族性、来場者ごとの信条や経験の違いの尊重
3	気を付ける (Being Alert)、一貫性を持つ (Being Consistent)、そしてチームの一員となる (Part of a Team) などを含めた「ホスティング・アクション (Hosting Actions)」
4	重要な事実やデータ、大会の日程、来場者向けの主なアトラクション、予想される来場者数などを常に意識するようにすること
5	任務を果たすことを期待されている勤務当番と時間
6	大会期間中に提供される様々なイベントやサービスを案内するために、地図を大いに活用すること。たとえば、ビーチのライブスクリーンやステージ、スポーツ・アリーナ、有料観客席へのアクセスや主な施設 (救護センター、公共便利施設、管理事務所及び会場運営センター) の詳細
7	大会に出場するセーリング艇の種類についての説明 (多くのボランティアはセーリングの専門家ではないので、主要な知識を得るため)
8	海上のレース区画のレイアウト (設計図と略図を使って示す)
9	文化オリンピック「Maritime Mix」の活動内容 (その多くが海に面した区画のオープンな環境で無料で開催されるので、多くの来場者の興味を引くと予想されるため)

3 . 藤沢市独自のボランティアの展開

「市民参加型の東京 2020 大会」の基本方針にそって、大会ボランティア、都市ボランティア以外に、市民が気軽に参加できる藤沢市独自のボランティア機会を創出、提供する。

(1) 基本的な考え方

ア 藤沢市独自のボランティアの視点

大会ボランティア、都市ボランティアの募集には、最低活動日数や1日の活動時間等の制約があるため、働く世代や子育て世代等にとっては、関心はあっても参加できない可能性がある。

また、大会運営の支援や来訪者に対する接遇等とは違った形で自己が保有する専門的スキルや能力を発揮し、東京 2020 大会に関わりたいという要望もある。

このため、市民が各自の就労形態や生活・家庭環境、興味や関心事項に応じて柔軟に参加できるボランティアの機会を提供する仕組みを藤沢市、藤沢市支援委員会が提供する。また、多様な市民の参加を促すとともに、企画準備段階から主体的に参画する機会を提供し、リーダー人材の発掘につなげることもねらいとする。

イ 展開の枠組み

具体的な展開にあたっては、(仮称)市民応援団との連携を図るとともに、

多様な市民が気軽に参加できる機会を創出、提供する

意欲ある市民や活動団体が企画段階から関わる仕組みを用意する

という視点から、次の2種の形態のプロジェクトとして展開する。

(ア) 参加募集型プロジェクト

東京 2020 大会の盛り上げや観戦に訪れる人々をおもてなしするために、藤沢市、藤沢市支援委員会が主導し、広く参加者、協力者を募集するプロジェクト形態で、児童・生徒、高校・大学生、働く世代・子育て世代、高齢者、障がい者等多様な層の市民が参加できる機会を提供していく。

(イ) 企画提案型プロジェクト

東京 2020 大会を盛り上げ、市民参加を促すボランティア活動について、市民や地元の大学生、市内の団体等から企画提案を求め、採用された案を藤沢市等が支援し、具現化するプロジェクト形態。市民の主体的、自主的な活動についても積極的な提案を求める。

個別の取組(プロジェクト)の実施にあたっては、推進計画の重点プロジェクトに基づき、東京 2020 参画プログラムの活用を図る。

(2) 参加募集型プロジェクトの展開

参加募集型プロジェクトの具体的な内容、実施時期、予算措置等の具体案については、次の表の原案や市民参加ワークショップでの提案等をもとに、今後検討し、決定する。

参加募集型プロジェクト例

プロジェクト名	主な募集対象	展開案
クリーン藤沢 サポーター (環境美化ボランティア)	<ul style="list-style-type: none"> 市民全般 地元企業・団体 自治会・町内会、子ども会 	<ul style="list-style-type: none"> 大会前から期間中にかけて、海岸や会場周辺、アクセスルートを中心に清掃箇所を定め、そこで清掃活動を行うボランティアを募集する 地元企業・団体ごとの参加や時間帯を工夫するなどにより、多様な参加形態を用意する
ガーデン藤沢 サポーター (花いっぱい運動推進員) 〔推進計画の重点プロジェクト 具体例の再掲〕	<ul style="list-style-type: none"> 市民全般 小・中学生 地元企業・団体等 	<ul style="list-style-type: none"> 「藤沢のまちに五輪の花を」をテーマに、協力ボランティアを公募し、会場周辺を花で飾る美化運動を展開する 花の種や統一デザインのプランター等をボランティアに提供し、大会に合わせて花を育ててもらう
アクセス藤沢 サポーター 〔ユニバーサルアクセス コーディネーター〕	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、障がい者及びその支援者 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障がい者に大会観戦や市内観光を楽しんでいただくための受入環境整備にあたり、問題箇所のチェックやその改善策の提案などを行うコーディネーター役となるボランティアを募集する
ボランティア藤沢 サポーター 〔ボランティアを支える ボランティア〕	<ul style="list-style-type: none"> 市民全般 活動エリア周辺住民等 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い市民が都市ボランティアや大会ボランティアとして活動できるようにするため、大会関連ボランティアを支える役割を担うボランティアを募集する (例) 子育て世代ボランティア支援(託児所運営) 休憩所でのおもてなし(例:冷たいおしぼり提供) トイレや休憩場所の提供 など
クリエイティブ藤沢 サポーター 〔メディア企画・編集 ボランティア〕	<ul style="list-style-type: none"> クリエイティブデザインやメディア編集に関心のある市民 	<ul style="list-style-type: none"> 大会期間中來訪者やメディア関係者に手渡す紹介パンフレットやガイドマップ等の制作を支援するボランティア 大会期間中は、関連イベントのレポートやボランティア活動の様子をウェブサイトやニュースレター等で紹介する 小・中学生による「子ども広報局」の設置も検討する
レポート藤沢 サポーター (映像記録ボランティア)	<ul style="list-style-type: none"> 写真・映像撮影愛好家 映像関連技術者 OB・OG 	<ul style="list-style-type: none"> 大会関連イベント・行事や大会関連ボランティア活動を動画、写真に記録し、DVD、写真集を制作するプロジェクトのためのボランティアカメラマン、編集者を募集する

(参加募集型プロジェクト例：つづき)

プロジェクト名	主な募集対象	展開案
アイラブ藤沢サポーター 〔シティプロモーション ボランティア〕	●市民全般 ●大学生	●応募者をチーム編成し、東京 2020 大会を機に藤沢市を国内外へアピールする素材(藤沢自慢)を取材やワークショップを通じて発掘・発見し、ウェブサイトやパンフレット、メディア向け資料としてとりまとめる
ドリーム藤沢 サポーター (次世代広報局員)	●中学生・高校生等	●藤沢市で行われる東京 2020 大会関連イベントやプログラム、都市ボランティアの活動の様子をレポートし、ウェブサイトや SNS、ニュースレター等で発信する次世代層の広報ボランティアを募集する

(3) 企画提案型プロジェクトの展開

市内で活動する NPO やボランティア団体、高校生・大学生グループ、地元企業、各種団体等を対象に大会を契機に展開するボランティア活動の企画提案を公募し、採用案件に対して藤沢市、藤沢市支援委員会が支援し、提案された活動を具現化する。なお、支援の具体的な内容については、今後検討し、決定する。

ア 提案募集・選考方法

藤沢市支援委員会(ボランティア等市民参加推進部会)が企画提案を公募する。

企画提案の内容は、東京 2020 大会を契機としたボランティア活動で、大会の盛り上げや支援、市民の参加促進につながるものであることを条件とする。

藤沢市支援委員会(ボランティア等市民参加推進部会)メンバーを中心に応募案の選考を行い、実施候補プロジェクトを採択する。

選考にあたっては、「市民参加型の大会」、及び「レガシー創出」の基本方針にそって、次の点を踏まえた選考基準を設定する。

- 幅広い市民参加につながるか
- 大会の盛り上げ、気運醸成に寄与するか
- 大会後も継続した活動を期待できるか
- 市全体への波及効果が見込めるか 等

イ 運用方法

採択案の提案者をプロジェクトの実施主体として具現化を図り、藤沢市、藤沢市支援委員会が実現に向けて支援を行う。

4. (仮称)市民応援団を通じた市民参加の展開

「市民参加型の東京 2020 大会」を実現するためには、大会関連ボランティアだけでなく、市民が東京 2020 大会と接点を持てる多様な機会を提供することが重要となる。このための(仮称)市民応援団における考え方と取組内容について概説する。

(1) 基本的な考え方

東京 2020 大会開催の準備段階から期間中まで、市民が大会に関連した様々な行事等に参加し、多くの市民がかけがえのない経験を共有し、喜びや感動を分かち合える機会を創出する。

(2) 取組方策

ア 児童・生徒の参加促進

次世代を担う子どもたちが東京 2020 大会に触れる体験機会を提供し、ふるさととしての藤沢でかけがえのない記憶が生涯にわたって残るような取組を推進する。

「藤沢市オリンピック・パラリンピック教育プログラム」の取組と連携して、展開の方向性も検討する。

【学校単位での参加例】

- セーリング競技についての事前学習
- 会場周辺や市街地を飾る絵画等の制作
- 片瀬海岸などでの砂浜運動会の開催

【個人・親子での参加例】

- 片瀬海岸などで選手への応援メッセージを人文字で描くイベント
- 片瀬海岸などに設置する巨大応援ボード制作

イ セーリング観戦・体験機会の提供

競技団体と連携してセーリングワールドカップシリーズ等、2020 年までに開催される大会と市民の接点を設けるとともに、東京 2020 大会での市民の観戦機会を充実させる。

(事前)

- セーリングワールドカップシリーズ等での海上観戦ツアー
- 親子セーリング体験会・観戦講座の開催

(大会時)

- 市民観戦エリアの設置を組織委員会に要望
- セーリング関係者による解説付パブリックビューイングの実施

ウ 大会関連行事等への参加促進

2020年までの様々な関連行事を市民に周知し、参加を促進する。大会参加国・地域の事前キャンプ誘致が実現した場合には、市民参加によるサポート体制を確立するとともに、市民と受入選手団との交流機会を設けるよう働きかけを行う。

【参加機会の例】

- カウントダウンイベント
- 聖火リレー
- 文化プログラム
- 事前キャンプ

エ 大会前や期間中の市民参加イベント開催

東京2020大会を盛り上げるため、大会前や期間中、藤沢市全体で市民参加による様々な行事やイベントを展開する。

【展開例】

- 藤沢市民ステージ（市内外の各種団体が伝統芸能、踊り等の各種パフォーマンスを披露）
- ビーチフェスティバル
ビーチスポーツ関連の団体と連携し、砂浜での各種スポーツ体験会や市民参加型大会（学校、スポーツ少年団、企業や自治会・町内会対抗など）を開催する
- 藤沢文化芸術祭
市民芸術・文化祭等を文化プログラムとして展開する

オ 認証制度の積極的な活用促進

東京2020参画プログラム（P2参照）や国で進める「beyond2020」の積極的な活用について、周知啓発及び活用支援を行う。

beyond2020 プログラム

- 日本文化の魅力を発信する事業・活動
 - 多様性・国際性に配慮した、以下のいずれかを含んだ事業・活動
 - 障がい者にとってのバリアを取り除く取組
 - 外国人にとっての言語の壁を取り除く取組
- 公的機関のほか、民間事業者、その他任意団体等幅広い方が実施する事業・活動が認証の対象となり、営利活動、非営利活動に関わらず、文化に関わる幅広い活動を認証します。



(3) 展開アイデア例

平成 29 年 11 月 25 日に開催した「藤沢市東京 2020 大会に向けたボランティアワークショップ」で市民や地元大学生から提案された内容をもとに、(仮称)市民応援団を通じた市民参加の具体的な展開アイデアを次の表に整理する。

アイデアの具現化については、実施主体や手法を早期に検討する。

(仮称)市民応援団を通じた市民参加の展開アイデア

タイトル	プログラム概要
「みんなのシーキャンドル」プロジェクト	～大会終了直後の夕暮れ、海を、波間にゆれるキャンドルで埋め尽くそう！～ 地域の人たちや子どもたちが思い思いに作ったキャンドルを小さな器に入れて一斉に放ち、無数の灯りで海を優しく照らし出し、大会終了後の名残惜しい海に、忘れられない思い出のシーンを刻む。周辺の住民や事業者の協力を得て、海岸沿いの照明を消灯して実施する。
「観戦船団発進！」プロジェクト	～湘南の船と船乗りを総動員し、みんなで船上観戦しよう！～ 地元のセーラーの呼びかけで、藤沢の子どもたちやファミリー、カップル、そして世界から藤沢を訪れる観戦客のための「海上観戦席」を、地元の船乗りたちが用意してくれる大会にする。 実施にあたっては、組織委員会などとの調整が必要
「バリアフリービーチ自慢」プロジェクト	～車いすでも波と遊べる、世界に自慢できるビーチを創ろう！～ 車いすを使用する人にとって、ビーチで波に触れる機会は限られている。たとえば、手作りのボードウォーク製作やみんなで手助けして波打ち際まで肩車で運ぶなど、東京 2020 大会を機会に市民が、できることでバリアフリーを実現し、湘南藤沢のビーチをバリアフリービーチとして世界に自慢(発信)する。
「インスタ映えフォトスポット」プロジェクト	～ガイドブックにない新フォトスポットを作って SNS で共有しよう！～ 市民がガイドブックに掲載されない絶景スポットを紹介したり、砂のお城、花の人形、ツリーハウスやお菓子の家、手芸やパッチワークの大壁画などの手作りアートで、来訪者が SNS 発信したくなるフォトスポットを創出、その活動を藤沢市民の新たな文化として観光レガシー化する。
「ウクレレおもてなし」プロジェクト	～ウクレレ腕自慢集まれ！あなたの腕を、世界中に自慢する機会です！～ 湘南・藤沢に似合うおしゃれな楽器のウクレレに焦点を当て、東京 2020 大会を機会に、腕自慢の市民を集めて世界に発信する機会を提供する。 ビーチの木陰、カフェの片隅、江ノ電の中など、市内各所で演奏できる場所の提供者を募り、公募した演奏希望者とマッチングさせる。
「藤沢を花でうずめる」プロジェクト	～どこにもないほど多くの花壇を用意し、美しく花をさかせよう！～ 湘南・藤沢に似合う花、たとえば、ハイビスカスを市民総参加で育て、大会期間中の藤沢の街をハイビスカスで埋め尽くす。江の島ヨットハーバー周辺、係留されているヨット、江の島大橋が無数の花で飾られ、134 号線も切れ目なくハイビスカスが咲き誇っている。そうした光景を市民参加で創出する。
「地元野菜グルメ体験」プロジェクト	～援農体験や地元野菜のグルメ体験で、来訪者に藤沢市の食の魅力を発信～ インバウンドのお客様に地域の魅力を感じていただく鍵は「体験」。援農体験やとれたて野菜の調理、期間限定農家レストラン等の体験プログラムを市内の農家の方々の協力で準備し、国内外から藤沢市を訪れる観光客等に提供し、海岸沿い以外の場所で藤沢の魅力を感じていただき、観光客から藤沢名物を世界に発信してもらおう。体験したお客様の SNS 発信により、藤沢市の食や農がブランド化し、大会後も来訪者が絶えない新たな観光レガシーの創出を目指す。

5 . 推進体制と実施計画ロードマップ

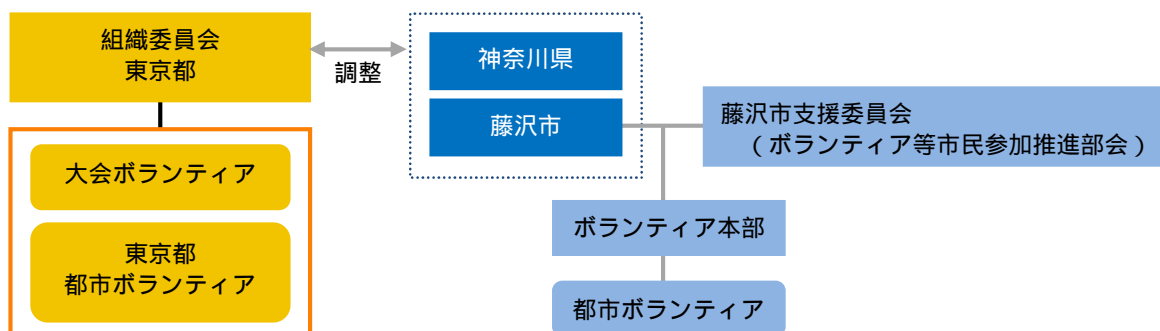
東京 2020 大会に向けたボランティア、及び市民参加のための取組を円滑に推進するために必要な体制と道筋を明らかにする。

(1) 推進体制

ア 都市ボランティアにおける推進体制

都市ボランティアの取組については、藤沢市と藤沢市支援委員会（ボランティア等市民参加推進部会）の下にボランティア本部を設置し、募集、選考、研修から大会時の運用調整まで、ボランティアに関する全ての実務を統括する。

推進体制図

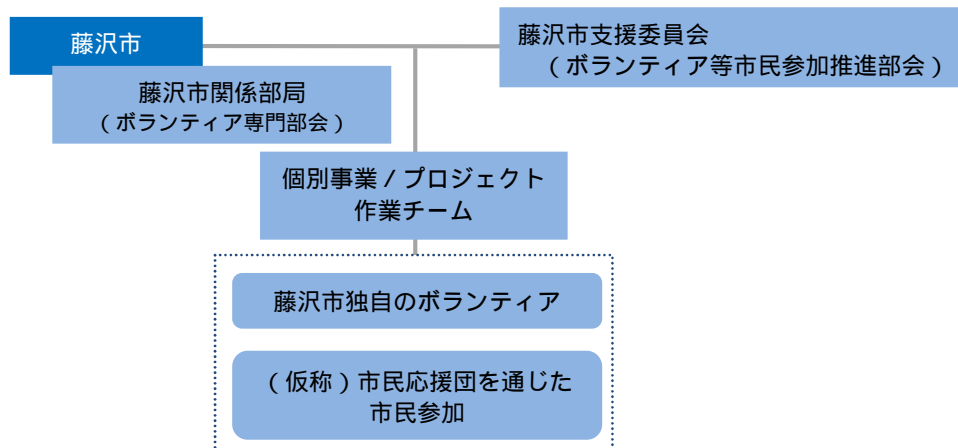


イ 藤沢市独自のボランティア等の推進体制

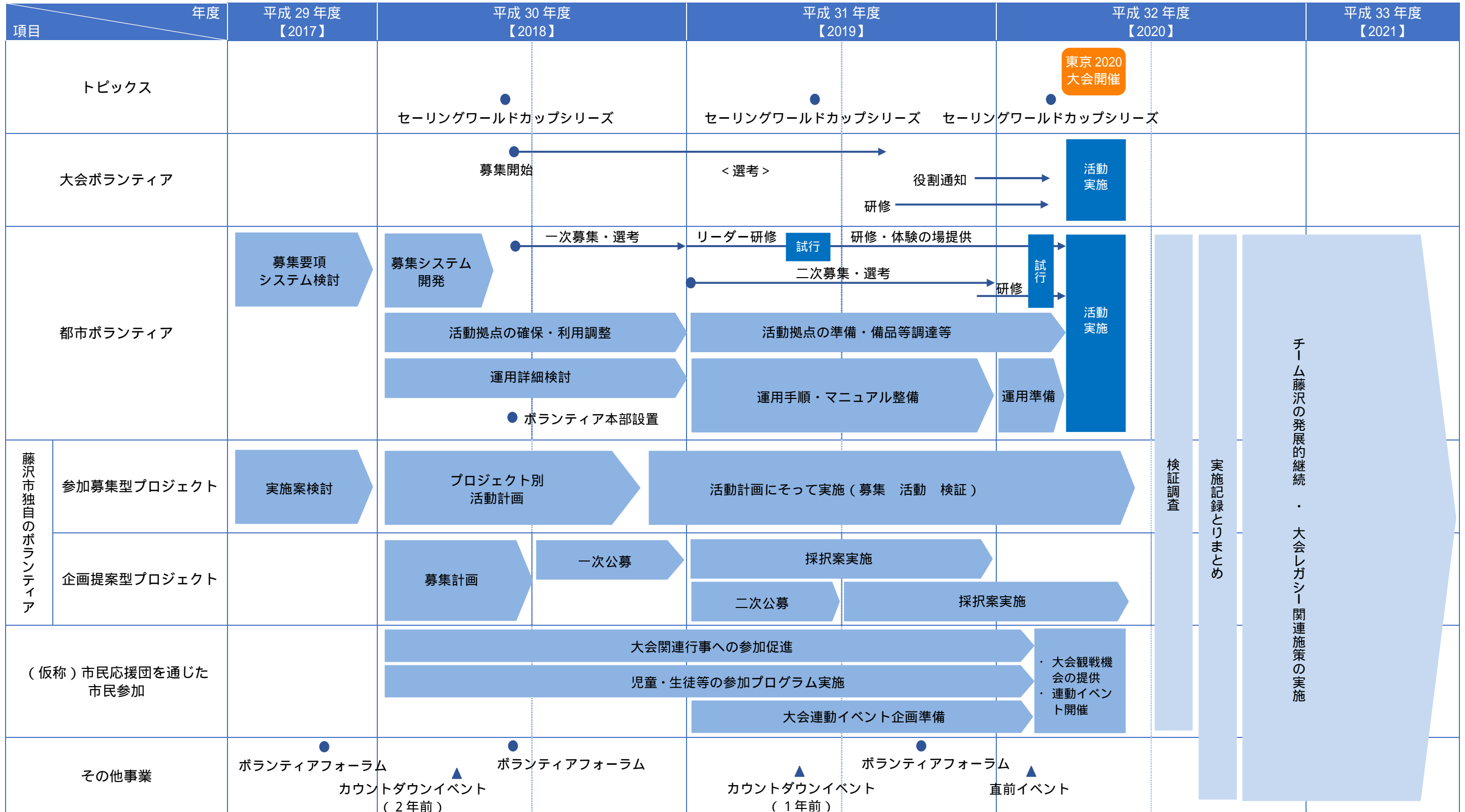
藤沢市支援委員会（ボランティア等市民参加推進部会）は、藤沢市とともに、本計画の推進主体であり、テーマごとに藤沢市関係部局を事務局として作業チームを編成し、取組を推進する。また、個別事業、プロジェクトごとの進捗管理や成果検証を行う監修機関としての役割も担う。

なお、（仮称）市民応援団の取組については、平成 30 年度は「藤沢市まちづくりパートナーシップ事業」提案制度を活用し、NPO との協働により推進するが、平成 31 年度以降の体制は今後検討し、決定する。

推進体制図



(2) 実施計画ロードマップ



6. レガシー計画～取組成果の継承策

東京 2020 大会に向けた大会関連ボランティア等の取組成果を大会後も継承し、藤沢市のボランティア文化として一層定着させていくための方策を整理する。

大会関連ボランティア参加者が大会後も活動を継続するとともに、福祉やまちづくり等の活動へと幅を拡げ、藤沢市にボランティア文化がより一層定着することを目指した取組を進める。

(1) 大会関連ボランティアの検証調査

大会前後に江の島会場の大会関連ボランティアに対する調査を実施し、参加動機や研修、運用システム等に対する評価、活動体験についての満足度等を把握し、取組全体の評価検証を行い、以降のボランティア関連施策にフィードバックする。

(2) ボランティアへの感謝の表明

東京 2020 大会のボランティア活動を以降の継続的な活動につなげていくためには、参加したボランティアに感謝の意を表明し、ボランティア一人ひとりが東京 2020 大会を支えたことを実感でき、より強く達成感や充実感が得られるよう配慮することも重要になる。

このため、ボランティア運営の準備と並行し、ボランティアへの感謝表明手段についても準備を進める。ウェイマス・ポートランド・アンバサダーの事例では次の取組が行われており、こうした先行事例も参考としつつ具体的な方法を検討する。

ウェイマス・ポートランド・アンバサダーへの感謝表明の取組

- ・ オリンピック終了後の自国のセーリング・チームやメダリストたちのパレードへの参加招待（ウェイマス・ポートランド・アンバサダーの一部が選抜され、ロンドンで行われた自国チームの祝賀パレードにも参加）
- ・ 大会後のパーティーへの招待（参加者の体験発表やコンサート、食事など）
- ・ 賞状、首相及び組織委員会の会長からの書状の送付
- ・ 来街者の感謝コメントなどを編集した冊子、写真集「忘れられない夏」の贈呈

(3) 参加者情報の継承

大会後もボランティア活動を継続する意向を持つ参加者については、個人情報の取り扱いに留意しつつ、その属性や実績情報を、藤沢市のボランティア情報を統括する組織へ継承する。

なお、活動意向を持ったボランティア情報を活用するプラットフォーム（基盤となる情報システム）については、組織委員会、東京都が大会ボランティアや東京都の都市ボランティア情報を大会後も一元的に管理、活用する仕組みの整備を検討していることから、その動向を見定めて対応を検討し、決定する。

(4) ボランティアが活躍する場の拡充とマネジメント機能の整備

東京 2020 大会後もボランティア活動の継続意向を有するボランティアがいきいきと活動し、さらにその輪を拡げていくためには、ボランティアが活躍できる場を継続的に提供、拡充していくことが不可欠である。

そのため、東京 2020 大会の会場となった江の島ヨットハーバーを核に、競技団体と連携して、セーリング競技の各種大会を開催するとともに、周辺の海辺環境をいかしてオープンウォータースイミングやトライアスロン、各種マリンスポーツやビーチスポーツ等の大会と連携し、支援する体制づくりを推進していく。

また、東京 2020 大会のレガシーとしてスポーツボランティアの活躍の場を拡充していくためには、単に活動の機会を提供するだけでなく、ボランティアが楽しく、生きがいを持って活動できるよう大会やイベント主催者のニーズを調整したり、ボランティア同士の交流や研修等を通じて個々のボランティアの技術や能力を向上させるマネジメント機能が必要となる。

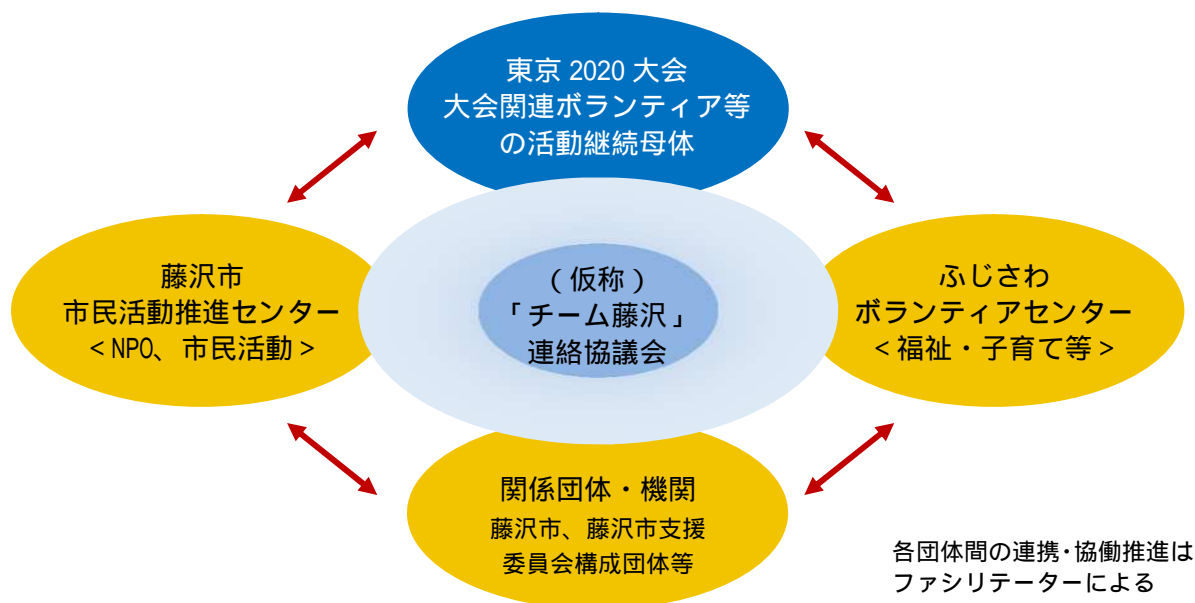
また、ボランティア活動の持続的な発展のためには、初心者向けの入門講座や体験機会の提供等によって新たな人材を発掘、育成する機能も重要となる。

(5) 「チーム藤沢」形成のための体制整備

東京 2020 大会後もスポーツボランティア活動の定着・発展に取り組むとともに、関係団体等が一体となって推進した大会関連ボランティア等の成果をいかし、様々な分野のボランティア団体がボランティア運営に関する知見、ノウハウを共有し、必要に応じて分野横断的に連携できる「チーム藤沢」体制の形成に取り組む。

具体的には、多様な分野のボランティア団体による共通研修、日常的な交流機会や場の開発、個々の活動やボランティア団体間の連携、協働を誘発するファシリテーターの育成などの推進体制を整備する。

「チーム藤沢」の体制イメージ



多様な主体による連携（マルチパートナーシップの推進）

< (仮称)「チーム藤沢」連絡協議会の役割 >

- ボランティア団体間の情報共有（成功事例・ノウハウ等）
- ボランティア同士や他の団体との交流、意見や情報交換の場提供
- 分野横断的な活動を誘発、コーディネートするファシリテーター人材の育成
- 互いの不足資源の補完
- 共同研修や共同広報、事業の展開（例・ふじさわボランティアフェスタ等）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた
「藤沢市大会関連ボランティア等実施計画」

2018 年（平成 30 年）3 月

藤沢市
未来につなぐ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市支援委員会